



青森市の子育てを応援してます

サポセン通信

vol.37

2025.10.発行



講師：森本晋也さん

ファミリー講座 6/17 開催

生命(いのちの)安全教育



森本晋也さん(元文部科学省安全教育調査官、現岩手県立図書館館長)を講師に招き、「子どもを性犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にしないための生命(いのち)の安全教育」をテーマに開催されました。

「生命(いのち)の安全教育」とは、①生命(いのち)を大切にし、子どもたちを性暴力の加害者・被害者・傍観者にしないための教育 ②生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解する ③生命(いのち)を大切に考えることや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を、発達段階に応じて身に付けること。

子どもの性被害にかかる現状は、児童ポルノ事犯に関わる被疑者の10代の割合が増加している。性犯罪・性暴力は、被害者の人としての尊厳を傷付け、心身に深刻な影響を与え、その後の生活にも甚大な影響を与えることが多い。加害者の7~8割が顔見知りであるとの調査結果もあり、特に子どもは、親、祖父母やきょうだい等の親族や、教師、コーチ、施設職員等、自分の生活を支えている人や、友好的だと思っている人からの被害を受けることや、被害が継続することも多い。継続的な性被害を受けている最中には、被害を他人に言えない状況がある。子どものうちは性被害だと気付かず、成長してから気づき、心理的に大きな傷を受ける場合がある。

また、SNSに起因する事犯の被害児童と被疑者が知り合うきっかけとなった最初の投稿の割合は、被害児童からの投稿が約7割、投稿内容は「プロフィールのみ」「趣味・嗜好」「日常生活」「友達募集」等、一見して犯罪に巻き込まれるとは考えにくいものが約半数。

次にオンラインゲーム上のリスクとしては「ボイスチャット」や「メッセージ交換」の機能が備わっており、匿名・不特定の人とも簡単にやりとりができる。協力してゲームを行うことを通じて、見知らぬ人でも「仲間意識」を持ちやすい。ゲーム内における高価な「アイテム」の授与等の甘い言葉につられ、被疑者の言うことに従ってしまう事や、ゲームの上級者に対する「憧れ」の感情を利用される事がある。

最後に、子どもに働きかける際のポイントは「生命(いのち)の安全教育」について深く理解し、継続的に話題にする。誰にでも起こりえるという当事者意識を持ち、積極的に子どもとコミュニケーションをとる。子どものサインを見逃さない。SNSに起因するリスクを理解し、保護者の責務のもとで、適切に管理する等について話されました。



青森市子育てサポートセンター

青森市子育てサポートセンターでは、家庭教育に関する学習機会の提供、青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座や発達に心配のあるお子さんに関する講座の企画運営、情報収集、発信、また子育ての相談の対応等を行っています。

【TEL・FAX】017-774-6537（開設時以外は、留守番電話をお願いします。）

【E-mail】aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp

【住所】〒030-0813 青森市松原1丁目6-3

サンピア（勤労青少年ホーム）2F

【開設日時】毎週火曜日 10:00~13:00

【ブログ】<http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara>



ブログ QR コード



【プロフィール】
臨床心理士・公認心理士
小中学校のスクールカウンセラー
いつもわかりやすく、相談者に寄り
添った回答をいただいています。

Q. 小学生2年と5年の兄弟が、些細なことで喧嘩ばかりしています。仲が良い時もあるのですが、すぐ口論やけんかになり、つい感情的に叱ってしまうことが多く、親としてどう関わるべきか悩んでいます。



ネガティブな感情をもつことはダメなことでしょうか。それは自分の大切なものが傷つけられたり、ないがしろにされたりしたサインだといいます。それが何かに気づくことが今回のポイントだと思います。

兄弟げんかの何に感情が揺さぶられたのかを考えてみましょう。ご本人に聞けないので想像ですが、怪我をしてほしくない、大声を出すと近所迷惑になる、ものを壊さないでほしい、言い合いする声が苦手、ケンカの対応で親自身の時間がなくなるなどでしょうか。そして、それをこどもに伝えているにもかかわらず、わかってもらえない怒り、悲しみ、やるせなさが嫌味や大声、時には怒鳴り声になるのだと思います。ただ、感情的になることと、それを外に出すことは別です。なぜなら、感情をそのまま出してしまうと、伝えたいことが相手に伝わらないからです。

親に叱られるとこどもは、その語気の強さにたじろぎ、

指示に従いますがその場だけということも少なくありません。高学年になると冷めた態度をとることも多いです。そして親の小言が早く過ぎ去ることばかり考えている人もいます。ということは、親の思いはこどもに届いていないのです。そうすると、同じことが繰り返され、「何回言えば、わかるの!？」とさらに親は感情的になり、叱るレベルはさらにパワーアップし、負の無限ループに陥ってしまいます。

親の思いがこどもに届くときは、お互いが落ち着いて過ごしているときです。そして、どういうときにケンカがおきやすいのかを事前に予測して、ケンカが起きたときは兄弟でどうするか、どうケンカをおさめるかをこどもと話し合い、決めておくことです。

感情をそのまま出すのは、こどもの危険度が高い行動を止めるときだけにしたいと私は思います。



講師：小倉雅子さん

ファミリー講座 7/4 開催

家でできるビジョントレーニング



みなさんの周りに文字を書くときノートを斜めにする人・エスカレーターに乗るのが苦手な人・クルクル回っても目が回らない人はいませんか？

トータル感覚研究会フリークエンシーバランサーの小倉雅子さんを講師に「家でできるビジョントレーニング」と題して講演をお願いしました。

ビジョントレーニングは、からだを使いながら生きる為の土台である「見る力」を整えることです。視覚機能は、外界の情報を目から取り込む(入力機能)・目からの情報を脳で処理する(情報処理機能)・認識しアウトプット、パフォーマンス(出力機能)という段階があります。これらの機能は、幼少期からのカラダを動かして遊ぶ事で育ちますが、現在の環境下では、多くの子ども達はこれらの経験による土台が未熟な為この部分を育てていきます。

① **前庭覚**：目や自律神経、姿勢と関係が深く、自分の身体の傾きやスピード、回転を感じる感覚⇒今の子どもたちは、前庭覚が未熟のために目が回らないことが多い。

② **固定受容覚**：自分の身体の位置や動き、力の入れ具合

を感じる感覚⇒体のバランスを上手く取れない、力の加減がわからずに紙コップをうまく持てずこぼしてしまうなど。

③ **触覚**：皮膚を通じて感じる感覚で、触ったり触られたりすることで感じる感覚⇒針でチクッと刺された痛み、水を触ったときの温度、毛布の柔らかさなど。

この中でも触覚が一番大切です。保護者が子どもを抱きしめることで子どもが安心安全を皮膚から感じ、学んでみよう、チャレンジしてみよう、とやる気というスイッチが入ります。コロナ禍以降、人間関係の希薄化・経験不足の子どもが増えているため、子ども達同士で様々なトラブルを経験させることが大事と話されました。

講座では身近な道具で出来るトレーニング、お手玉(2人でお手玉の交換、紙コップにお手玉を入れる) 3個の色違いのスポンジ(一斉に飛ばし1つだけつかむ) 羽を上から落とし、指でつかむ(1回転してからつかむ) バランスボール トランポリンやわらかい棒(チャンバラごっこ)等が紹介され、子どもと一緒に楽しんで行う方法を体験しました。

